

# 「女性アンケート」活用しよう

## 女性部だより

年金者組合  
京都府本部  
女性部発行  
2023年  
4月15日発行  
(第186号)

**「たすけあい  
介護サービス」**

年金者組合員は介護保険制度を利用した福祉用具使用時の利用者負担分(1割)の助成を受けられます。ベッド、車いすなど13種類。まずは相談してください。

受付窓口  
03-6256-8967  
・全労連共済共済事業会  
・日本フロンティアネットワーク

みんなで苦心して集め、まとめたアンケートです。活用する方法を考えてみましょう。

**①仲間づくり**  
協力してくれた223人の組合外の方にも結果を報告しましょう。

山科支部のYさん、アンケートを書いていただいた方に、まとめと加入申込書をお届けして説明してきました。「入ってもらえるよう、また伺ってみます」。

中京支部のAさん「1550人集めたんや」「すごい」「保険料が」「ホンマや天引きばかりして酷い」「組合を大きくしてたかわんとやられっぱなしや」「そやけど私、人と一緒に何かするのは嫌いだし、なんにもできひんで」「いつも署名してくれてるやん、それが組合運動よ」「まあそうやったら入るわ」。

### ②支部で学習会

#### 支部女性部会議から

3月3日、東山支部女性部会議(4人)ではダイジェスト版を使って、また他支部の取り組みを紹介して話し合い。日常の組合運動やサークルでの女性のがんばり、アンケートに寄せられた声を大切に、楽しくのんびりやろうと話し合いました。

3月30日は右京支部女性部世話人会議(8人)で「アンケート」から何を学ぶか、全府版と右京版を用意されて、情勢論議と合わせてお話が弾みました。

選挙直前ということもあって、移動投票カーを出してほしい、軍拡よりそういうことにお金を使ってほしい、戦争あたりまえみたいな声が日常的に出てこわいね、子ども医療費、北陸新幹線、私らがずーっと運動してきたことをもっと知らせないと、など地

域要求も組合運動も具体的に  
出され、話し合いました。

仲間づくりも相談、知人たちを誘ってウトロ平和祈念館を観覧に行く計画です。

みなさんが発言できるように詳しいレジメも用意されていて、役員さんのご苦労が忍ばれました。そして会議が済んだ後は、手作りお昼で食事会。そのおいしさに本当にびっくり!

右京支部女性部の魅力をたくさん見せてもらった半日でした。



右京女性部世話人会議

### ③自治体や各種団体を訪問し対話しよう

3月24日、女性部事務局で26箇所訪問。「過半数1550人から回答」で「よう集まったね」、円グラフを見せると「すごい」「10万円以下が10ポイント増」「助けてほしい国や自治体にむしられて」「なるほど」「政治を変えるしかありません」「そりや読ましてもらいます」と対話して進呈してきました。

各団体事務所を順に回ったらJAM京滋があり、相手が「連合ですけどかまいませんか」と言われたので「値上げに見合う賃金、年金の願いは一緒でしょ。ぜひ読んでください」。

ここまで来たらと連合本部事務所へも。女性部担当の副事務局長とお話し、1冊進呈してきました。

(2面左上へ)

(1面の続き)

冊子の活用数合計は現在250冊、ダイジェスト版合計6350枚です。支部での活用を希望される場合はご連絡ください。年金者組合府本部のHPからダウンロードもできます。支部での学習会や感想、意見なども、ぜひ府本部へお知らせください。



3月8日は国際女性デーです。今年も母連の方たちとアピール行動に取り組みました。

### バイバイ原発3.11集会

政府は原発回帰へ方針を切り替えました。しかも国会で議論することなく閣議決定のみです。参加者が掲げる「バイバイ原発」と書かれた大きなカードは、日本語のほか米、韓、中、スペイン語のものも。パレードのときカードを振ってアピールしたら、外国人の方から「ガンバッテ」と笑顔が返ってきました。

女性部からも3人が参加しました。=写真は第2集団の先頭を歩く高橋つや子さん(中央)



低年金女性の生の声を集めた冊子「今、ここにある窮状 175の声」が、年金者組合中央本部から発行されました。=写真  
ご希望の方は府本部までご連絡ください。(無料)

「新婦人しんぶん」22年10月22日号  
「女性の低年金是正へ 国庫負担で月8万円最低保障年金制度を」

(2月号から続き)

全日本年金者組合副執行委員長・女性部長 中川滋子さんと考える③  
実態を告発、政治に迫る

女性たちの実態告発と低年金の是正運動で、最低年金保障制度の実現などが急がれます。

低年金の根本的な解決は、国庫による最低保障年金制度を確立することです。年金者組合は、1人月額8万円を、無年金の人も含めてすべての人に支給すべきと提言しています。現在、世界では2桁の国々で、最低保障年金制度が実施されるなど世界の流れになっていきます。

1人ひとりの実態を、社会に訴え、政治に迫る運動が必要です。私たちは「年金引き下げは許せない」と7年前から年金削減について国を訴える裁判に取り組んでいます。全国では5千人以上が提訴。各県の原告は自分の生活の内情をさらけ出して、近い友人にさえ言えなかった家計の事実を身を切る思いで陳述し、その思いは聞く人の胸に深く落ちました。

私たちは今、減らされ続けてきた年金に対し「高齢者に死ぬというのか」という思いで黄色い署名「物価に見合う年金あげる」の1人1枚署名に取り組み、4年ぶりに「年金一揆」も開催しました。2012年に取り組んだ「女性高齢者生活実態調査」(1万8481人回答)では、女性の低年金の実態をデータで明らかにして、国会でも取り上げられ、国連の社会権規約委員会でも発言しました。国連は日本政府に2度にわたり年金女性の貧困、性による差別最低保障年金制度の創設などを勧告しています。女性の低年金の解決へ、みなさんと共通の願いだと思えます。ともに頑張りましょう。

最低保障年金制度は世界の流れ 全額国庫負担や税による最低保障年金制度の国々

オーストラリア、クエート、ニュージーランド、デンマーク、フランス、ロシア、アイルランド、ノルウェー、オランダ、スペイン、スウェーデン、アルゼンチン、タイ、韓国、カナダなど (おわり)